

令和7年度 第1回日田市森林整備推進連絡協議会 議事録

日 時：令和7年9月29日(月) 10:00～11:30

場 所：日田市役所 7階 中会議室

次 第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 農林商工部長あいさつ
4. 委員紹介・自己紹介
5. 委員長選出
6. 委員長あいさつ
7. 協議内容
 - (1) 令和6年度森林環境譲与税の取組実績について
8. その他
9. 閉会

1. 開会

2. 委員の委嘱

- ・今年度が委員の改選のため、委嘱状を交付

3. 農林振興部長あいさつ

4. 委員紹介・自己紹介

- ・各委員による自己紹介
- ・事務局の自己紹介

5. 委員長選出

- ・委員の互選により大分県林業経営者協会の長哲也氏が委員長に就任
- ・委員長職務代理者について、日田市森林組合の和田正明氏を長委員長が指名

6. 委員長あいさつ

7. 協議内容

(委員長)

それでは、令和6年度森林環境譲与税の取組実績について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

事務局 資料1説明〔省略〕

(委員長)

質問・ご意見をいただいた後、その他の項に移り、最後に、県・市の部長に総評をもらい11時半ごろには終了したいのでご協力をお願いします。

それでは、取組実績について質問・意見があればどうぞ。

(委員)

資料7ページの1. 森林経営管理推進事業で、切捨て間伐2.83haで事業費176万円の内容を教えてください。ほかに経費が計上されているなら教えてください。それと、9番の豊かな森づくり担い手育成事業(p10)の防護衣、安全靴の上限の額が低いのではないかと考えていて、機能的なものであればこの金額では買えないというのがあるので、根拠の数字があるのかというのと、これをもう少し上げていく算段があれば教えてください。

(事務局)

森林経営管理推進事業の切捨て間伐は、入札しているが、選木・伐採・道路沿い等の棚積み等をしている。筆全体の面積については、9.64haであるが、その中で切捨て間伐が必要なところだけは2.83haで測量もしている。

防護衣等の上限については、これまで上げた経緯はあるが、資材高騰などあり検討の余地があると思っており、調査したうえで考えていく。

(委員)

12番の木の香るまちづくりと11番の日田材普及啓発事業について、以前も言ったことがあるが、アンケートなりでフィードバックするシステムがあるのか。13番の小中学校の机椅子は、「きみの木」とかの冊子が作られていて、普及啓発という意味ではいいと思っているが、12番(木の香るまちづくり)に関してはどのように予算を伝えているのか教えてください。

(事務局)

11ページ12番の木の香るまちづくり事業は、アンケートを取るというのは、まだやっていないが、当然ながら、補助金を受けられた方々からは、木をふんだんに使えて、木の香りがしているという意見は多々聞いている。しかし、お客さんの反応はどうなのかというのは、まだ聞けていない状況なので、今後、そういった声をどう捉えていくかは、検討したい。

(委員)

1点目は見方の話で、総事業費と充当額については、総事業費は市が支出した予算の全額でい

いのかということ、2点目は、事業で言うと1番の森林経営推進事業（p4）で、日田市さんの場合、森林経営計画が非常に多くたてられているので、それと、広葉樹を除いた場所ということだと思うが、数字がかっちりとは無いと思うが、今後、ターゲットになるものはどれくらいあって、50haとか徐々に進めていく状態ではないかと、そのあたりの数字があれば教えていただきたい。

（事務局）

総事業費については、事業の市の予算の総額である。それから、1番の森林経営管理推進事業については、市内の約8割で経営計画がたてられていて、残りの2割については、約1万haほどあり、その中で森林資源解析を令和元年度から3年度までおこなっている。それを基に林班に優先順位をつけて森林整備がされていないところをめぐって調査をやっている。はっきりとしたものはないが、今年度試験的に、上津江町全体の意向調査を行うこととしており、結果に基づいて森林整備等を検討していきたいと考えている。うまくいけば旧町村単位で進めていきたい。

（委員長）

情報共有というのは地域で必要と思うが、ひた森の担い手づくり推進協議会の状況とか、そういうのを市と共有しているか。

（委員）

そのことは、計画段階から市と相談しており、実績とあわせて進めているところ。今、2年半経ったが、概ね計画どおりに担い手を確保できている。

（委員長）

市の期待感はどうか。

（事務局）

ひた森の担い手づくり推進協議会とは、毎月1回の打ち合わせも含め一緒になって進めている。ひた森講演会を2回開催しているが、参加者も50名、60名という人数にもなっており、また、これからひた森勉強会が4回シリーズで行われるが、応募者が予定の20人を超えてきている状況。来年が3年目になるが、徐々にこれを続けていきながら、担い手を増やしていきたいと思っている。

（委員長）

今、（自民党の）総裁選挙が行われているが、外国人労働力が公約の遡上にあがっている。今の製材所の状況と、市の関わり合いみたいなものについて思うことがあれば、現状と共に願います。

（委員）

全木連が主体となって、2年くらい前から機械製材というのができて、正式に製材工場に技能実習生が入れるようになった。全木連が主催する中で、参加組合が多いのは大分県。その中で日

田市が13社加盟。全国の中でも日田市は多い。今は、ベトナム人からネパール人、インドネシア人に変わりつつある。今の政治の中で、外国人労働者の雇い入れはOKの方向性でいっているような内容であるが、その中で、移民を排除するという、ちょっと勘違いされているところがあるように思う。日本はここまで若い人がいなくて、労働者がいなくて移民しなくてどうするのだという個人的な見解はある。労働問題として私たちは、製材所のメンバーで13社プラス入っていない方もいるが、その中で、70～80名は外国人労働者がいる。まだ増やす予定のところもあり、実際その方たちがいないと企業がなっていない。うちにも4人いる。地域に馴染んでいけばいいと思う。移民という言い方が正解なのか分からないが、人口を増やしていく方向で、日田市もやってほしい。

(委員長)

思った以上に、木材業界は外国人の方が増えており、増えれば一般市民との間に、なんらかの軋轢はあるかもしれない。そのためには、それに対応すべく市の方も考えていただきたいというのが私の意見である。

ほかに何かあるか。

(委員)

私自身、個人事業主であるが、今後、法人化も考えていかなければやっていけなくなっている。人材育成・担い手確保で、社会保険料等の助成、対象とか範囲を教示願いたい。

(事務局)

社会保障の助成については、認定林業事業体を育成するという法律がある中で、森林ネットおおいが取りまとめをして助成をするという枠組みがある。その中で市町村の協力を得てというもともとの流れがあり、今のところ認定林業事業体を対象に社会保障の助成ということでやっている。その中でも森林整備法人という位置づけの森林組合とトライ・ウッドは、健康保険であるとか労災保険が補助対象になる部分が1/3あり、通常の認定林業事業体は、今のところ林退共・中退共の退職金共済の助成がある。

(委員)

防護衣などの補助事業は大変助かっているのですが、これからも継続をお願いしたいのと、上限の見直しも検討をお願いします。

(委員長)

ほかに、何かありますか。

(委員)

1ページの令和5年度のところで基金積み立てがマイナスで、その背景があれば教えていただきたい。また、毎年かなり事業の要望がある中で、事業体の要望を充足できているかどうか。

(事務局)

令和5年度は、約4,500万円を取り崩しているが、これは、林業専用道の整備のために積み立てた基金を取り崩している。

要望等への充足については、各事業いろいろあるが、要望の枠内で行っているものもあれば、調整をして次の年に繰り越すようなものもある。

造林補助金等もかなり助成しているが、提案型とかは応募がないときもある。また、今年暑かったということもあり、要望調査が終わった後に空調服とかの話が出てきて、対応できるものは対応したが、できないものもあった。空調服、防護衣が多く出てくる年とそうでない年があり、なるべく対応するようにはしている。そのように概ね事業者からの要望には応えられていると思っている。

(委員)

造林補助金の上乗せは助かっているので、今後も継続していただきたい。

(委員)

2. 森林整備総合対策事業で、令和6年度が8,700万円に対して令和7年度が7,400万円と減額になっている要因は何か。

(事務局)

予算的な枠組みの中で、下刈りについては、5年間までとなっており、算定をしたうえでその額になっている。しかし、仮に予算を上回るようであれば、上回った分は譲与税を入れている状況であり、あくまで数値的な目安となる。

(委員)

3 ページの林業高校のサポート事業はどういう事をやっているのか聞ききたい。

弊社に、日田林工を卒業して他県の林業大学校を出て入ってくる人材がいるが、習っていたことが、ほとんど日田林工と同じ内容だったと、だから林業大学校の座学の分はほとんど無駄だったということを言っていた。だから日田林工のレベルというか、やっていることはかなりすごいことをやっていると思うが、もう少しアピールが欲しいと思う。

(委員長)

いい意見と思います。委員どうですか。担い手づくりに関して。

(委員)

そういう内容を聞くと大変うれしく思う。担い手づくりの事業でも林工とコラボしてやる分がある。それから、おおいた林業アカデミーに通っている方もこちらに来て一緒に勉強したりしている部分もある。林工の良さをその際にも活かしていければと思う。

(事務局)

林業高校サポート事業の内容であるが、林工林業科に対する支援である。今年度からで全国募集が始まった。その背景というのが、定員割れがしばらく続いていて6年間ほど定員40名に対し

て25、6名しか入っていない状況というのもあり、皆様にも要望をお願いし、全国募集枠で今年の4月から1名宮崎県から入学している。それから定員も5名減の35名になったが、試験の応募は41名いて、定員も満たした。

今後も学校の魅力化のため、学校と一緒に取組をやっているが、この事業については、全国募集で入学した生徒への支援とうのものもあるが、ほかの生徒についても、チェンソーの資格とかは県がみるが、そのほか市の方でフォークリフトと草刈り機の資格の補助、外部講師の講演会、今年度はひた森の第3回の講演会で予定している青葉組の代表の方を考えている。このように、林業科に多くの生徒が入学するようにサポートをする事業である。

(委員)

バイオマス発電所では、燃料となる未利用材という資源が不足しているんな価格が高騰しているということがあがる。Fitについては間伐由来であれば32円の電気、一般木材であれば24円の電気になるが、証明がきちんと出されなければ、その単価にならない。今、買取価格がトン8,500円とか9,000円とか9,500円とかになっているが、こういう価格で買い取りしても発電所としては採算が合わないと思う。買取価格が高いところの方がいいと思うが、調査が入った時に川上まで確認していくので、問題が出てくる可能性もあるのではないかとということを知っておいてほしい。

(委員)

質問というか要望だが、補助率は10/10や1/2、1/3がある。何らかの理由があって決めているであろうが、譲与税の配分額が3億円あって、執行額2億7千万円というときに積み立てに残りが入るわけで、その分は補助率を上げたりできないのかなと思う。それと、この会議の報告自体が9月で、上半期が終わるくらいになっており、もう少し早い時期にならないのは何故か。

(事務局)

森林環境譲与税について、もらっている額に比べて執行率が低いということで、もう少し補助率を上げられないかということである。上げるにこしたことはないが、令和6年度から森林環境譲与税が満額交付になっており、徴収率に応じて若干前後して配分額というのは変わってくる。令和7年度は、譲与税自体は若干増えるということは県からも聞いているが、今後、必要な整備の際にある程度財源を残しながら執行するため、若干余裕をもって基金に積み立てを行っている状況である。特に机・椅子とか、林道台帳については、先まで計画があるので、財源等が不足しないように、ある程度積み立てをしているものである。

会議の開催の時期は、市の令和6年度の決算の時期が5月いっぱいまでになっており、それ以降に決算が発表できるようになる。例年、8月くらいに開催していたが、今回は少し遅くなっているが、概ねこの時期でないと決算の報告等もあり、難しいところである。

(委員長)

消防団である委員に質問したいが、山林火災の際、林道台帳整備の事業の中に水場とかの情報があれば便利なのかと思うがどうか。

(委員)

それは便利である。水の確保が一番大事であり、防火水槽のようなものは市の方が設置していると思う。

(委員長)

山林の中を場所が分からず消防団がうろうろしている。場所が分かった上に、水場がどこにあるというのが分かると、なおいと思う。林道台帳については、そういう点はどうか。

(事務局)

現在行っているのが、これまで紙ベースであった林道台帳をデジタル化の作業を令和9年度までかけてやるようにしている。要望のものについては、どこまで対応できるのか検討していきたいと思う。今、やりますということの回答まではできないが、それを活用して消防とうまく連携をとったようなかたちでできればと思う。

(委員長)

せっかく整備するならばということである。たとえば、林道台帳作っておいて、消防団が行ったら使えないということでは困ると思う。より現実的な台帳を使うと消防団もいいし、消防車にGPSで出るとかそんなのがあると防災上いいのでは思ったところ。お願いしますと言っている訳ではないので、一応言っておく。

(委員)

先ほど林工の話がでており、今後のことで提案。

私ども、昨年、今年と林工林業科に募集を出している。今現在、応募がない。来てくれる方がいない状況である。学校の定員の関係でいろんなことをしながら増やしているのは事実であるが、どうしても卒業生は、なかなか地元に残らない状況がる。私どもはぜひとも人材が欲しいが、本人の意思であり、なかなか厳しいのかなと考えている。すぐ解決しないのも事実であるが、せっかく35名入ってくるのだから、できるだけ地元に残れるようなことを考えていってほしい。

(事務局)

日田林工とのかかわりは、コミュニティスクールというのが今年からでき、十分意見交換ができる場面があるので、そういった機会も通して、我々と、民間側でのこういった意見を伝える機会があると思う。特に進路については、先生がポイントになるところがあるので、先生とも意見交換しながら地元就職の考え方とか、地元の企業を知ってもらうとか、そういった機会も考えていきたい。

8. その他

(長委員長)

それでは、その他の項にいきます。

・前回の会議で話題となった「新しい地方経済・生活環境創生交付金」について資料で説明

(委員)

公共でもらっていたものを交付金でもらえるということか。

(事務局)

この交付金は、内閣府が主導している新しいもので、従来からある森林整備補助事業とか、そういったもとは別のモノである。交付金そのものは林業に限らずいろんな地方創生的な使い方を、地方の自由度も高いというのものもあるが、いろんな要件があり概ね1/2くらいの補助として、自治体の考え方に沿って使われている、そういった交付金である。

(委員)

うちは田舎で、県道といっても林道みたいなところで、トラックで木材を搬出する時、枝とかが、半分以上覆いかぶさった状態で非常に困った状態である。

県に要請したが予算がないとか、所有者に話をしてもなかなか厳しいというようなことで、資料の図をみると、通行が困難なところで、林道ではないがどうなのだろうか。

(委員長)

道路沿いの枝払いについてどうか。

(事務局)

はっきりと今、良い悪いの判断は難しいと思うが、今の話は、市道、県道、そのあたりの道路脇の枝葉、そういったものが支障になるということだが、この交付金は、林業分野だけでなく、地域の地方創生につながる取組の何かにビジョンが描ければたぶん使えるものだろうと理解をしている。たとえば市道、県道あたりでその枝葉を払うこと、それから、それを通じて地方創生みたいなものを、ほかの取組と組み合わせながら、ビジョンを描くというようなことが、この交付金を使うための要件になってくるので、単体で道路の枝葉を落とすという事だけでは多分、難しいかと思う。いろんな組み合わせで日田市のためになるということがあれば、そのひとつのメニューとして枝葉を払う行為も、場合によってはそういう使い方もあるのではと思う。

(委員長)

それでは、会議の総評をお願いします。

(委員)

まず、日田市の担当者においては、森林整備を中心に非常に幅広く取り組まれていると感じた。特にインフラ関係については他の市町村にもないような非常にいい取組だと思う。これらの事業を検討する中で、かなり市職員のスキルも上がってきたのではないかと思う。これは、冒頭、委員長が言われたことだと思う。

県の、森林環境譲与税については、本来の使い途としては、市町村の支援というのが一番の取組になっており、我々県の林業関係の職員についてもこれから資質向上に取り組み、一生懸命に日田

市を支援できるよう頑張りたい。

(事務局)

活発な意見ありがとうございます。冒頭に委員長から市の職員の資質が向上しているというありがたい言葉をいただいた。市の職員の今後のモチベーションになるかと思う。

森林環境譲与税については、令和6年度ではほぼ満額、3億を超える貴重な財源として助かっている。内訳でいうと、森林整備が今のところ80%を超える状況で、これはこれでいいが、今後、皆さん方のご意見を聞くと、人材育成、担い手確保というのが重要な課題になっていくと思っている。たとえば、林工の取組、外国人労働者の関係もそうであるが、外国人については、労働者を呼んでくるという制度の内容については国にやってもらう内容になるが、市としてもできる範囲、相談を受けたり、日本語教室を行ったりとか、できる範囲で、今後とも企業者の皆さんの意見等も聞きながら進めていきたいと思っている。

労働者確保をはじめ、今後も、皆さん方から事務局である林業振興課にいろいろな意見をいただきながら、譲与税を活用した事業を効果的に進めたいので、今後ともよろしく願います。

(委員長)

これで今日のすべての議題が終了したので、進行を事務局にお返しする。

9. 閉会

(事務局)

長時間にわたり活発なご意見をいただいた。毎回この会議の中では、それぞれの立場からの意見をいただくようにしている。我々も非常に参考になる意見とか、一方で、我々も説明が十分でないところあるが、この会議を年2回するという意義があると思っている。

それでは、本日の協議会をこれで終了する。

令和7年度第1回日田市森林整備推進連絡協議会委員名簿

任期：令和7年9月29日（委嘱日）～令和9年3月31日

No	所属	役職	氏名	備考
1	大分県林業経営者協会	会員	長 哲也	
2	日田市森林組合	代表理事専務	和田 正明	
3	日田郡森林組合	森林整備課長	桑野 哲治	
4	日田木材協同組合	製品共販課長	宮崎 桂一	
5	日田地区原木市場協同組合	代表理事	諫本 憲司	
6	日田素材買方協同組合	理事長	野上 信二	
7	大分県樹苗生産農業協同組合	日田支部長	日高 康弘	
8	大分西部地域林業結衣の会	副会長	綾垣 憲一	
9	前津江森林産業事業協同組合	理事長	綾垣 新市	
10	株式会社トライ・ウッド	森林保全部長	増永 智一	
11	田島山業株式会社	代表取締役	田島 信太郎	代理出席 嶋津 浩一郎
12	マルマタ林業株式会社	取締役	合原 万貴	
13	株式会社KAZU企画	代表取締役	江田 一雄	
14	日本フォレスト株式会社	山林事業本部長	水田 和幸	
15	大分西部森林管理署	署長	杉崎 浩史	
16	大分県西部振興局農山村振興部	部長	石田 陽一	

(順不同)

事務局：日田市林業振興課